

# 学習シラバス

教科 公民	科目 現代社会	履修学年 1	コース 全	履修区分 必修	単位数 2
使用教科書 ・副教材等	高等学校改訂版現代社会（第一学習社） 改訂版現代社会ノート（第一学習社）、フォーラム現代社会 2018（とうほう） 現代社会ワークブック（愛媛県高等学校教育研究会）				
学習目標	人間の尊重と科学的な探求の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。				

## 授業計画

	学習内容	学習のねらい
一学期中間 で 一学期 中間 考査 ま	第1編 私たちの生きる社会 ・地球環境問題  ・資源、エネルギー問題  ・科学技術の発達と生命倫理  ・高度情報社会と私たちの生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境問題と人間の活動とのかかわりを理解させ、よりよい環境を次世代に引き継ぐための方策を考えさせる。</li> <li>資源の有限性について理解させ、石油に代わるエネルギーや資源の有効利用について考えさせる。</li> <li>科学技術の発達が社会や生活をどう変化させ、どのような問題を抱えるようになったかを考察させる。</li> <li>高度情報化社会についての理解を深めさせ、情報化の進展が社会にどのような影響を与えているかを考えさせる。</li> </ul>
一学期 期 末 考 査 ま で	第2編 現代社会と人間としてのあり方 生き方 第1章 現代に生きる青年  第2章 個人の尊厳と法の支配	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯における青年期の意義を理解させ、自己実現と職業生活、社会参加、伝統や文化に触れながら自己形成の課題を考察させ、現代社会における青年の生き方について自覚を深めさせる。</li> <li>個人の尊厳を基礎として、国民の権利の保障、法の支配と法や規範の意義及び役割について理解を深めさせるとともに、生命の尊重、自由・権利と責任・義務、人間の尊厳と平等などについて考察させ、他者と共に生きる倫理について自覚を深めさせる。</li> </ul>
一学期 中 間 考 査 ま で	第3章 現代の民主政治と政治参加の意義  第4章 国際政治の動向と日本の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的人権の保障、国民主権、平和主義と我が国の安全について理解を深めさせ、日本国憲法に定める政治の在り方について国民生活とのかかわりから認識を深めさせるとともに、民主政治における国家と個人について考察させ、政治参加の重要性と民主社会において自ら生きる倫理について自覚を深めさせる。</li> <li>国際社会における政治の動向に触れながら、国際の諸問題について理解させ、国際平和、国際協力や国際協調を推進する上での国際的な組織の役割について認識させるとともに、国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方について考察させる。</li> </ul>
二学期 期 末 考 査 ま で	第5章 現代の経済社会と私たちの生活  第6章 国際経済の動向と日本の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代の経済社会の変容などに触れながら、市場経済の機能と限界、政府の役割と財政・租税、金融について理解を深めさせ、経済成長や景気変動と国民福祉の向上の関連について考えさせる。また、雇用、労働問題、社会保障について理解を深めさせるとともに、個人や企業の経済活動における役割と責任について考察させる。</li> <li>グローバル化が進展する国際経済の動向に触れながら、相互依存関係の深まり、地域的経済統合、南北問題など国際社会における貧困や格差について理解させ、国際協力の在り方や日本の果たすべき役割について考察させる。</li> </ul>
学 年 末 考 査 ま で	第7章 現代に生きる倫理  第3編 とともに生きる社会をめざして	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の伝統的なものの考え方や近代の西洋思想に触れながら、人生を豊かに生きることについて考えさせる。</li> <li>持続可能な社会の形成に参画するという観点から現代社会の課題を探究し理解を深めさせるとともに、現代に生きる人間としての在り方生き方について考察を深めさせる。</li> </ul>
評 価 方 法	<b>【関心・意欲・態度】</b> 出席状況、授業態度、意見発表等で評価する。 <b>【思考・判断・表現】</b> 意見文、学習プリント、グループ活動の様子、定期考査等で評価する。 <b>【資料活用の技能】</b> 学習プリント、レポート等で評価する。 <b>【知識・理解】</b> 小テスト、定期考査、ノート等で評価する。	